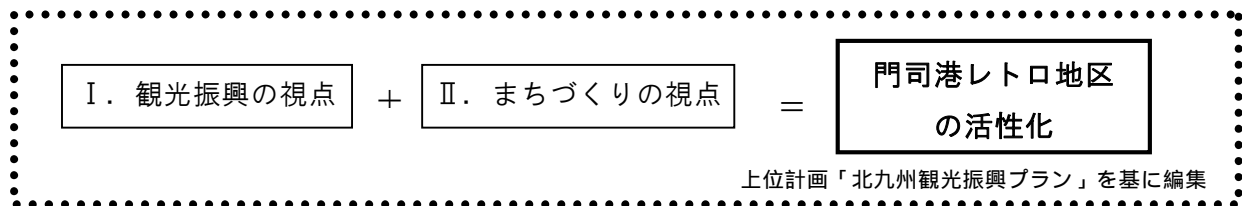


## 検討の前提

### 1 計画策定に向けての視点

第一期、第二期計画では、歴史的建造物の保存活用や観光施設の整備など、多くの観光客を迎えるためのハード整備を中心とした観光振興に取り組んできた。

今回の長期計画では、観光振興の視点も重視しながらも、「訪れたいまち」を目指すためには「住みたいまち」になるべきであるとの考えから、「観光振興」「まちづくり」双方の視点から、計画づくりを行う。



### 2 来訪者（観光客）・住民のタイプ

一言で「観光客」といっても、観光地に対する期待やニーズは様々である。また「住民」についても、まちづくりに対する姿勢は一定ではない。

そこで、計画の検討過程では、「観光客」や「住民」を幾つかのタイプに分け、それぞれに必要な施策の検討を行うこととする。

#### ア 来訪者（観光客）のタイプ （門司港レトロへの来訪者の内訳）

- |   |
|---|
| ① 非日常観光客 49.6%  |
| （例：物見遊山客、観光バスツアー客）  |
| ② 日常観光客 23.2%   |
| （例：年に数回、魅力あるショップで買物をしたり、食事を楽しむ客）                                    |
| ③ 門司港ファン 26.3%  |
| （例：特に観光としてではなく門司港レトロの環境が好きで足繁く訪れる客、<br>いずれ活動（生活）拠点としての場を求める可能性のある人） |

H19.12月に門司港レトロ来訪者を対象に実施したアンケート（1,224票）より、「初回」と回答した人を「非日常観光客」とし、「2～3回」と回答した人を「日常観光客」、「4回以上」と回答した人を「門司港ファン」と設定した。

#### イ 住民のタイプ

- |  |
|--|
| ① 静かに暮らしたい住民   |
| ② 自らのまちに誇りを持ち、ボランティア意欲を持つ住民・団体<br>（例：観光案内ボランティア、まちづくり団体） |
| ③ 事業者（商業・観光等）（例：商店街、観光事業者）                               |

### 3 門司港レトロ地区の振興フロー

門司港レトロ地区のさらなる活性を図るため、来訪者（観光客）については、一般観光客で非日常の行動として来訪した人々には、地域の魅力をより知ってもらうことにより、再来（リピート）を促す。

さらには、このような来訪者が地域の自然や歴史、人との交流を楽しみに訪れる“門司港ファン”となるような「観光地づくり」を推進する。

一方、住民については、地域活動、地域学習等を通して地域愛を醸成し、まちづくりへの理解を深める。

また、ボランティア意欲をもつ住民・団体については、官民一体の「門司港レトロ倶楽部」等を中心に、さらに美しいまちの形成や、おもてなしの心を持った受入体制の充実を図り、“門司港ファン”が門司港レトロを活動の拠点とするよう、事業者と協働・連携して魅力的な「まちづくり」を行う。

